

令和元年度 事務事業総点検シート(1)
[平成30年度事務事業]

一般会計		事務事業分類			詳細点検
事務事業名	暮らしのセーフティネット事業			シート番号	A 一般事務事業 11-049
担当部署名	健康福祉	局	長寿社会	部	長寿支援 課 評価責任者(課長名) 羽野

Ⅰ. 基本情報

基本情報	1	堺市マスタープランの政策体系に基づく事業の位置付け	政策	1	暮らしの確かな安全・安心を確保します	後期実施計画の位置付け
			施策	2	地域全体で支える福祉の仕組みづくり	有
	2	事業開始年度	平成 22 年度		終了(予定)年度	— 年度
	3	根拠法令等(法令、条例、規則、要綱等)				
	4	関連計画	第3次地域福祉計画			
5	事業実施の経緯	急速な少子高齢化の進展、家族機能の低下、障害者の地域生活への移行など、支援を必要とする人の地域生活を支える必要性が増大し、公的なサービスだけでは対応できない制度の狭間の問題や複合的な問題も増えてきている。				

Ⅱ. 事業概要

事業概要	6	事業の実施主体(誰が実施しているのか。)	<input checked="" type="checkbox"/> 本庁 <input type="checkbox"/> 各区 <input type="checkbox"/> 出先機関 () <input type="checkbox"/> 市外郭団体 <input type="checkbox"/> 地域団体・市民 <input type="checkbox"/> 民間企業・NPO <input type="checkbox"/> その他 ()			
	7	事業の対象(誰を、何を対象としているのか。)	要援護者、地域福祉活動団体			
	8	事業の目的(どのような状況にしたいのか。)	専門相談機関が個別課題の対応に専門性をより発揮できる環境づくりとともに、見守りや声かけなど、近隣住民や地域の力を借りて、支援を必要とする人ができるだけ地域生活を維持・継続できることをめざす。			
	9	事業内容(スケジュール、実施方法・手段、事業ボリュームなど)	地域福祉をすすめるキーパーソンとして、コミュニティソーシャルワーカー(以下「CSW」と表記)を堺市社会福祉協議会区事務所に設置し、小学校区では生活課題の発見・支援、地域福祉活動の促進、複数小学校区ではソーシャルサポートネットワークの形成、区では事業開発や専門機関・団体のネットワーク形成、全市では政策提言などのCSW機能を実践するとともに、各圏域の機能をつなぎ、地域福祉を総合的に推進する。			
10	直接実施以外の主な支出先	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> その他 () 社会福祉法人堺市社会福祉協議会				

Ⅲ. 投入量

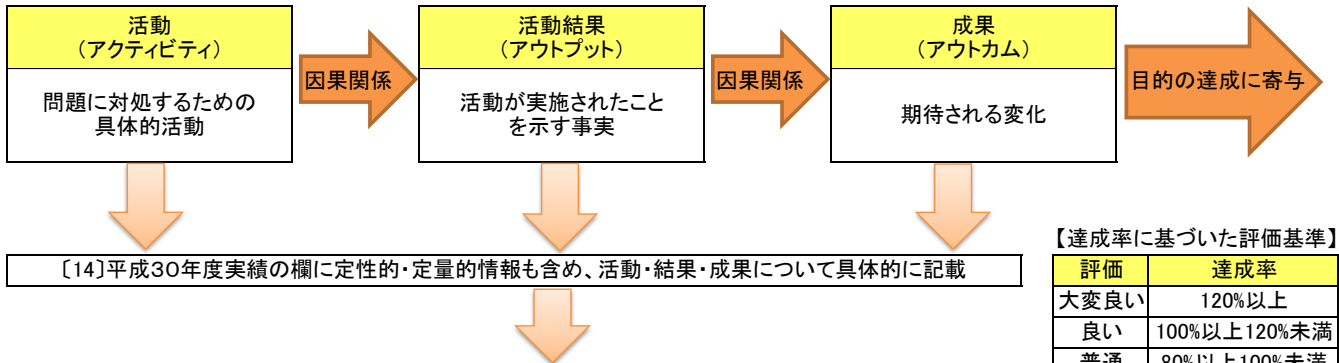
項目	単位	H28年度決算	H29年度決算	H30年度決算	R1年度予算		
11 事業費 (a)	千円	61,411	54,562	47,228	44,402		
主な事業費内訳	区社協CSW人件費	千円	53,011	47,380	40,473	37,155	
	専門機関CSW活動費	千円	2,563	2,491	2,161	2,114	
	活動支援経費(研修、会議運営、スーパーバイズ)	千円	1,288	650	1,095	1,096	
		千円					
	財源内訳	国・府支出金	千円	27,240	25,049	20,236	18,577
		受益者負担金(使用料、手数料等)	千円				
市債		千円					
その他(地域福祉推進基金)		千円	34,171	25,000	25,000	25,000	
一般財源	千円		4,513	1,992	825		
12 人件費 (b)	千円	2,460	2,460	2,460	2,430		
13 総コスト(c)=(a)+(b)	千円	63,871	57,022	49,688	46,832		

令和元年度 事務事業総点検シート(2)

事務事業名	暮らしのセーフティネット事業	シート番号	11-049
-------	----------------	-------	--------

≪Ⅳ. 評価(測定・分析)≫

ロジックモデルの考え方



[14]平成30年度実績の欄に定性的・定量的情報も含め、活動・結果・成果について具体的に記載

[15]または[16]に定量的な指標、または定性的な目標を記載

【達成率に基づいた評価基準】

評価	達成率
大変良い	120%以上
良い	100%以上120%未満
普通	80%以上100%未満
少し悪い	60%以上80%未満
悪い	60%未満

事業の活動内容や成果

平成30年度実績							
活動実績と成果	14	<p>CSWを堺市社会福祉協議会区事務所に配置し、コミュニティソーシャルワーク機能の実践、専門機関・団体のネットワーク形成、各種会議・研修の開催や啓発活動、地域福祉課題に対応する人材養成と専門職・地域住民のスキルアップをめざす研修プログラムの開発・実施等を通じて、地域福祉を総合的に推進した。 地域での会議への出席や講義活動などの地域支援数は2,938件であり増加している。 また、CSWへの相談件数は2,299件であり、増加している。</p>					
	15	指標名	単位	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
	地域支援数	件	目標値	1,285	1,330	2,520	2,800
			実績値	1,373	2,548	2,938	
			達成率	107%	192%	117%	
			評価	良い	大変良い	良い	
	算出方法・設定根拠など		令和元年度 7区×400件、算出方法:地域での会議への出席や、講義活動などの回数				
	16	指標名	単位	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
	CSW相談件数	件	目標値	880	980	1,260	2,100
			実績値	1,015	1,277	2,299	
			達成率	115%	130%	182%	
			評価	良い	大変良い	大変良い	
	算出方法・設定根拠など		令和元年度 7区×300件				

業績の分析

17	<p style="text-align: center;">目標を達成できた、または達成できなかった要因についての分析 (その他、関連情報に基づいた分析)</p>
	<p>今年度においてもおおむね目標数を達成し、相談件数については増加している。日常生活圏コーディネーターとして、生活支援コーディネーターと一体的な配置を拡充していることにより、関係機関や地域支援者からのCSW認知度・信頼度が増したためと考えられる。</p>

【分析のチェックポイント】

- 事業の達成度はどうでしたか。
- 5W2Hを踏まえて、実施過程に問題はありませんでしたか。
- 資源投入は適切でしたか。
- 事前想定できない外的要因の影響はありませんでしたか。
- 事業の有効性は高いですか。低いですか。